

■ 2009年度 入試問題分析シート ■

京都大学

前期日程

科目	国語(古文・理系)
----	-----------

試験時間	90分	満点(配点)	総人(理)・教育(理)・経済(理)・医(医) 150点、 理・医(人間健康)・薬・ 工(物理B,電気電子Bを除く)・農 100点	出題数	現代文 2題、古文 1題
------	-----	--------	--	-----	--------------

総括

難易度(昨年比)	難化	昨年並	易化
分量(昨年比)	増加	昨年並	減少

〈総論〉

理系問題は今年で三年目であるが、京大の入試問題としてかなり本格的になってきたと思われる。

〈合格への学習対策〉

基本的な語彙・語法をしっかりと身に付けた上で、本文全体の中で傍線部の内容を理解していくという学習姿勢が肝心である。問題文の分量がそれほど多くないからと高をくくった小手先の勉強では対応できない。

問題分析(本文)

問題番号	類別(ジャンル)	出典(著者)	コメント(特徴・出題頻度など)	本文のレベル
三	日記	『源家長日記』	中世の日記からの出題は、京大としてはめずらしい。	標準

設問分析

問題番号	設問番号	設問形式	設問内容(特徴・解答上のポイントなど)	設問のレベル
三	問一	記述	現代語訳問題。(1)は「忘れ」の主体と客体、(2)も「念ぜ」の主体と客体、(3)は「かかる別れ」の指示内容と「忘れはて」の主体と客体を補うことが要求されている。	標準
	問二	記述	内容説明問題。「なかなか」の語義をふまえた上で、「御もの思ひの催しぐさ」がどういうことかを説明することがポイント。	やや難

「本文のレベル」と「設問のレベル」は、本大学・学部を志望している受験生の入試レベルを基準に、難易度を5段階〔難・やや難・標準・やや易・易〕で判断しています。昨年対比ではありませんので、総括の難易度(昨年比)とは連動しません。